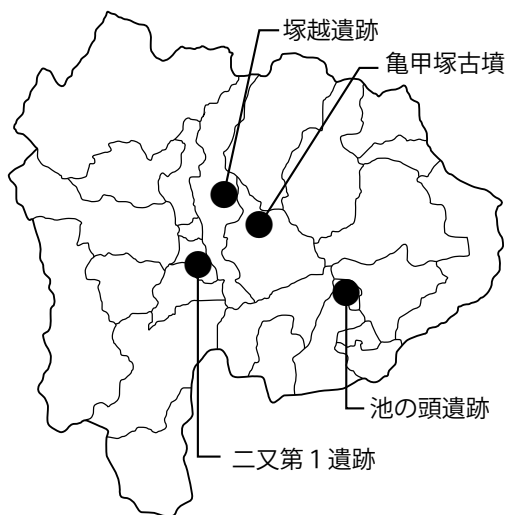


2022(令和4)年度 第1回 遺跡調査発表会要旨



発表遺跡 Line up

- 発表1 甲府市 塚越遺跡**
昭和測量株式会社 泉 英樹
- 発表2 笛吹市 亀甲塚古墳**
帝京大学文化財研究所 櫛原 功一
- 発表3 西桂町 池の頭遺跡**
西桂町教育委員会 奈良 泰史
- 発表4 中央市 二又第1遺跡**
山梨県観光文化財埋蔵文化財センター
御山 亮済



1 つか ころし
塚越遺跡



2 かめのこうづか
亀甲塚古墳



3 いけ かしら
池の頭遺跡



4 ふたまた だいいち
二又第1遺跡

日時 2022(令和4)年10月15日(土)

会場 帝京大学文化財研究所大ホール

主催 山梨県考古学協会

山梨県観光文化財埋蔵文化財センター

塚越遺跡

昭和測量株式会社 泉 英樹

- 1 所在地 甲府市国玉町地内
- 2 調査主体 昭和測量株式会社
- 3 調査期間 令和4年1月7日～1月28日
- 4 調査面積 120㎡
- 5 調査原因 宅地造成工事のため
- 6 調査担当者 小谷亮二
- 7 調査概要

遺跡の立地

塚越遺跡は、甲府盆地の北縁に近い標高 255m の沖積平野に立地しています。遺跡の西側には濁川が流れ、南側で平等川（明治以前の笛吹川）に合流します。遺跡の北西約 500 m には玉諸神社があります。国玉明神とも称され、遺跡の所在する国玉町の地名の由来とされています。玉諸神社の社記によれば、日本武尊が東征の折、洪水に苦しむ様を見て、水害防止のため珠を埋め、その上に杉を植えて祀りました。この杉は「玉室杉」と呼ばれたことから、「玉諸」の名が起こったとも伝えられています。また、国玉町の東に隣接する上阿原町の「阿原」には、低湿地の意味があり、明治 21 年の陸地測量部二万分の一の地図では沼田の表記がみられます。これらのことから遺跡周辺は古くから水につきりやすい低湿地帯であったことが窺えます。

遺跡の周辺では深田遺跡や鎌田遺跡、熊社遺跡、落合氏館跡など、弥生時代から中世にかけての遺跡が散在していますが、遺構・遺物の検出は少ない傾向にあります。塚越遺跡の包蔵地範囲内でもこれまで本調査が行われたことはなく、今回が初めての本調査となりました。

調査の成果

調査区の東半部では土坑・小穴群を検出しました。建物跡と想定できる遺構はありませんでしたが、遺構の内外から硬玉製勾玉や黒曜石の石核・剥片・チップが出土しました。調査区の西半部は沼地であったようです。湿地堆積を確認し、その上面に堆積する土層から土器が出土しています。出土遺物は東半部では弥生時代中期を中心としています。西半部の沼地では後期にかけての土器も出土しています。

硬玉製勾玉は土坑（SK1）の上面で出土しました。

土坑の大きさは長径 101cm、短径 91cm、検出面からの深さは 8cm です。この土坑の底面では小穴もみつきり、小穴の上面は砥石とみられる平石で蓋をしたような状態でした。小穴の中からは炭化したオニグルミなども出土しましたが、何らかを埋納した後に石を置いたとも想定できます。土坑上面で硬玉製勾玉が出土していることも考え合わせると、お墓であった可能性も考えられます。硬玉製勾玉は長さ 2.1cm、幅 1.3cm の小形品です。扁平な半円形に近い形状で、やや角張っています。

黒曜石の石核や剥片、チップは調査区東半部の土坑・小穴群周辺で、遺構の内外から出土しました。出土量は重さにして 214.99 g を量り、この遺跡内では石器製作が行われていたと考えられます。

出土した土器の時期は、弥生時代中期中葉、中期後葉、後期の三時期に大きく分けることができます。中期中葉では関東系の条痕文土器、中期後葉では長野方面の櫛描き波状文や簾状文を施した土器、後期では縄文や貼付文、刺突文などの東海系土器の特徴がみられ、弥生時代の甲府盆地への人や物の交流の一端を窺うことができます。

自然科学分析の成果

今回の塚越遺跡の調査では、土器の付着物の圧痕について分析を行った他、土坑や包含層の土壌試料を採取して、その分析を行いました。

土器圧痕については、圧痕のレプリカを作成、分析し、イネ粃とイネ種子を検出しました。土器の胎土の内部から採取したイネ粃もあり、粃が土器作成時の粘土に混入していたことも分かりました。

土壌分析については、試料を水洗選別し、抽出した炭化物を分析したところ、イネ・オオムギ・エゴマ・オニグルミが含まれていることが分かりました。このうち、オオムギは土坑（SK1）の底面の小穴から採取した試料に含まれていたものです。オオムギと同じ小穴で採取されたイネの炭化種子について、放射性炭素年代測定を行ったところ、 2σ 暦年代範囲で 361-241calBC (66.49%) など、弥生中期の範疇に収まる結果となりました。甲府盆地におけるオオムギの栽培起源を知る上で、大変貴重な成果と言えます。



土坑・小穴群 北から



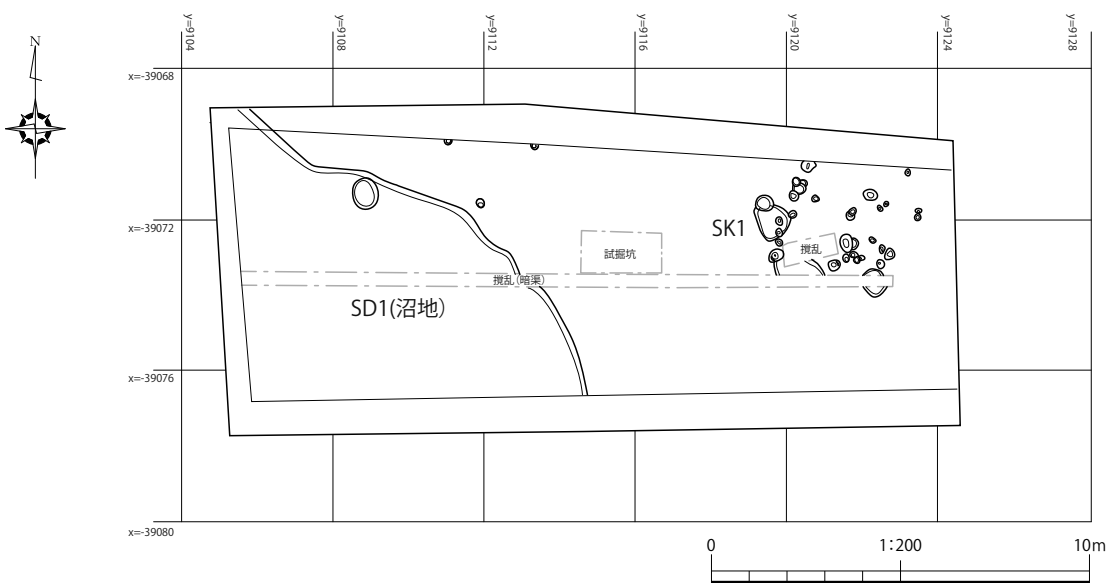
勾玉出土状況(S K 1 上面)



沼地(S D 1) 南西から



沼地(S D 1)遺物出土状況



塚越遺跡 遺構全体図

かめの こう づか こ ぶん 亀 甲 塚 古 墳

帝京大学文化財研究所 榎原 功一

- 1 所在地 笛吹市御坂町成田地内
- 2 調査主体 帝京大学大学院文学研究科 日本史・文化財学専攻
- 3 調査期間 平成29年8月5日～8月13日、令和元年8月5日～8月12日
- 4 調査面積 42㎡
- 5 調査原因 帝京大学による考古学実習
- 6 調査担当者 榎原功一(担当)、阿部朝衛、萩原三雄、高木暢亮、畑大介
- 7 調査概要

概要と過去の調査

亀甲塚古墳は甲府盆地低位(標高272m)のモモ畑内に所在する22×26.5m、高さ3.3mの五角形に近い墳形の古墳です。笛吹川河岸から300mと近く、周囲には条里地割が展開しています。この古墳では、昭和23年(1948)12月26日から3日間、当時、甲府二高の教員であった中島正行氏らによって主体部が発掘され、以下のような出土状況であったと考えられます。

- ・主体部は南北方向の長さ4.5m、幅1.4～2.1m、北側がやや幅広の石(礫)郭状竪穴式石室で、礫面までは地下1.2m。石室は安山岩の山崎石による割石と河原石で囲み、礫敷きの床面がある。
- ・後漢の盤龍鏡1面、直刀1口、鉄鉾?3本、用途不明鉄製品1、碧玉製管玉53個、土器破片少々が出土。鏡は破砕鏡である。
- ・鏡は北側から、刀は遺骸想定位置の周囲から、管玉は石槨内に散布したように出土。

その後、本古墳の築造年代に関する議論があり、鏡や管玉は古い様相を示すものの、鉄鉾の存在から、4世紀末、5世紀前半、中葉、後半、または6世紀代の古墳時代前期～中期に位置づけられてきました。これに対し、石神孝子氏は管玉が細孔で、両側穿孔である点から、より古相である点を指摘しています。

調査の経過と成果

帝京大学大学院では、学部生と共同で2013年より山梨県内で考古学実習を実施していますが、2017・2019年には文化財研究所から近い場所にある本古墳を調査対象とし、笛吹市教育委員会の協力のもと、本古墳の墳形確認、時期確認を目指して調査をしました。

これまでに計5本のトレンチを周壕が想定される墳丘周囲のモモ畑内に設定しました。墳形をうかがわせる決定的な遺構の発見には至っていませんが、1-1、2-3号トレンチ内で墳丘を囲む段状構造が見出され、周囲の周壕の立ち上がりの可能性が認められました。また各トレンチからは土師器が出土し、いずれも小破片の状態ではあるものの、古墳2～3期前半(3世紀後半～末)のS字襷、内面に鋸歯状沈線文をもつ装

飾高坏類、二重口縁壺などが出土し、時期は限定的といえます。また2-1号トレンチからは、柳葉式鉄鏃1点が出土し、古墳時代前期初頭に位置づけられる銅鏃模倣品とみられます。また1-2号トレンチから土師器と同レベルで出土した炭化材のコナラは、年代測定によれば、校正年代範囲は1 σ 暦年代範囲で213-241cal AD(68.27%)と判明しました。

2020年には出土遺物の調査研究として、鏡の成分分析、管玉の穿孔技術を調査しました。鏡については文化財研究所の藤澤明、三浦麻衣子氏の協力のもと、鏡の断面で成分分析を実施しました。併せて小平沢古墳の二神二獣鏡についても同様の分析を実施し、馬淵久夫氏の先行研究の分析結果を追認することとなりました。また管玉については、穿孔状況を調べるためのシリコン圧痕を採取したところ、石神氏の指摘通り、ほとんどが両面穿孔によるものでした。

鏡への新たな注目

2022年7月、京都大学大学院の岡村秀典氏が盤龍鏡の調査のため来県されました。岡村氏は本古墳の鏡に注目され、亀甲塚古墳の盤龍鏡の製作地、年代について以下のように評価されました。

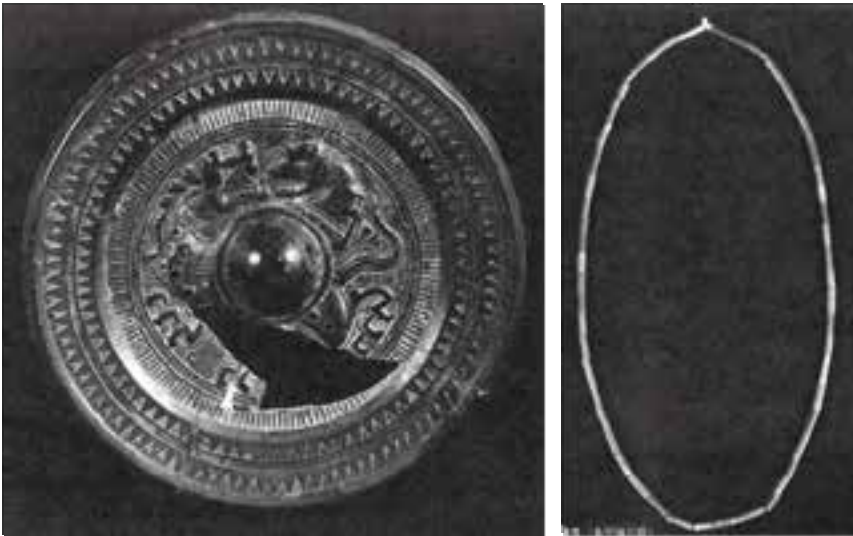
- ・西暦90年頃の河間国成平での製作で、淮南を故地とする「石氏」グループが出張して製作した。
- ・このグループ製作による盤龍鏡は3面が知られ、平壤で2面、佐賀県唐津市久里双水古墳(3世紀末～4世紀)で1面の計3面が出土しているのみで、たいへん貴重である。
- ・墳形は前方後方墳の可能性があり、前方後方墳の分布は濃尾平野に勢力の中心を置いたとされる狗奴国の勢力圏を示す可能性が高い。

まとめ

本古墳の墳形確認には、まだ至っていませんが、出土遺物からの総合的な判断によれば、時期的には小平沢古墳(甲府市)と同じ頃で、甲府盆地の最古級古墳となりそうです。したがって中道方面のほか、御坂路方面にも有力首長が存在したと考えられ、首長の系譜を見直す必要性がありそうです。

参考文献

- 石神孝子 2006「笛吹市御坂町亀甲塚古墳出土管玉の再整理」『研究紀要』22 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 榎原功一 2020「山梨県笛吹市亀甲塚古墳の研究-2017・2019年度の調査成果-」『帝京大学文化財研究所研究報告』第19集
- 村松眞琴 1947「亀甲塚発掘経過」『郷土研究』7 山梨郷土研究会



写真左：盤龍鏡

写真右：管玉

出典：山梨県考古学協会1983
『山梨の遺跡』

図1：亀甲塚古墳測量図

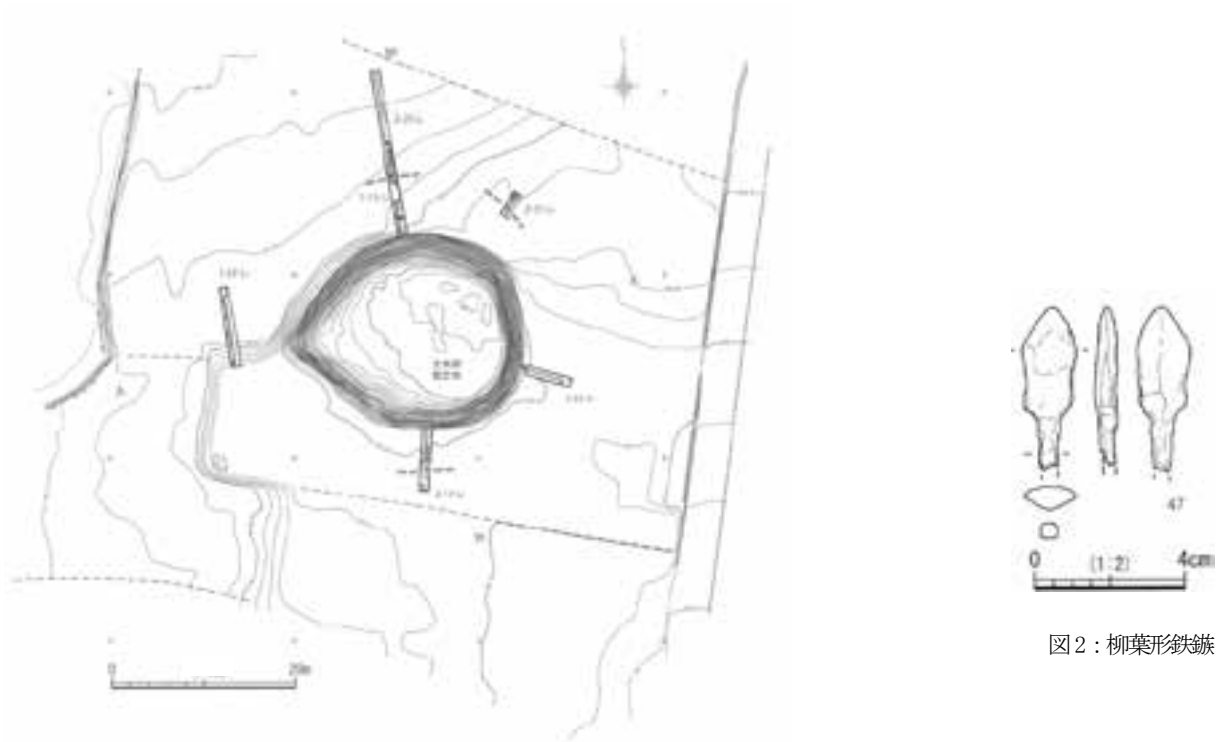


図2：柳葉形鉄鏃

図3：二重口縁壺



図4・5：裝飾高坏

いけ の かしら い せき 池 の 頭 遺 跡

西桂町教育委員会 奈良 泰史

- | | | |
|---------|---|---|
| 1 所在地 | 南都留郡西桂町小沼 2919 - 1 | 定されるものと考えられます。 |
| 2 調査主体 | 西桂町教育委員会 | 住居跡から出土した遺物で、特に目を引くのは、4 |
| 3 調査期間 | 令和4年5月23日～8月29日 | 号住居跡で出土した鉄製鎌、5号住居跡の床面から出 |
| 4 調査面積 | 2,300㎡ | 土した鞆の羽口、6号住居跡の床面出土した灰釉陶器 |
| 5 調査原因 | 県道バイパス（上暮地バイパス）・
町道（池ノ頭2号線）建設に伴う
発掘調査 | （高台付椀）の破片などです。
これらの内、鞆の羽口は先端部が加熱で一部欠損し
ていますが、ほぼ完全な状態で出土したものです。 |
| 6 調査担当者 | 奈良泰史 | 竪穴遺構は、掘込みはしっかり確認できましたが、 |
| 7 調査概要 | | 水田の整地により北側が削平され、竈が検出されな
かった点や出土遺物が少なかったことなどから、竪穴
住居跡とは異なる遺構と考えられます。 |

(1) 遺跡の立地・環境

池の頭遺跡は、桂川左岸段丘上に立地しますが、この原地形は、富士山から流出した溶岩が要因になっています。周辺は、古富士泥流（約1.7万年前流出）を基盤に、桂川の河床となっている猿橋溶岩（約8,500年前流出）、さらに遺跡が立地する台地を形成した桂溶岩（約8,000年前後、都留市十日市場付近まで流出）などが重層的に堆積し、また、遺跡の南東側には、剣丸尾第1溶岩（AD937年頃、富士吉田市上暮地まで流出）の末端崖が広がっており、遺跡の目前まで同溶岩が迫ったことが窺えます。

(2) 調査成果

発掘調査は、県道バイパス及び町道建設に伴い令和3年7月及び9月に実施した試掘調査で、縄文時代中期初頭の五領ヶ台式土器片及び平安時代の住居跡・土師器・須恵器が確認された範囲を対象に、調査区1～6区を設定し、調査に当たりました。

調査の成果は、平安時代の竪穴住居跡9軒、竪穴遺構1基、掘立柱遺構、土坑4基、中・近世の溝状遺構13基などが確認されました。

まず、竪穴住居跡は、1区1軒・3区2軒、4区1軒、5区2軒、6区3軒と調査区全体に散在して検出され、また、各住居跡共にまとまった出土遺物は認められませんでした。出土した土師器から9世紀後半に比

掘立柱遺構は、4区で検出された直径40～80cm前後の柱穴群で、比較的規模の大きな複数の倉庫群の存在が推定されます。また、3区からは、直径20～40cm前後の柱穴8本が検出され、これは小規模な倉庫跡と推定されます。

土坑は、4基検出されましたが、出土遺物が少なく性格を特定できるものではありませんでした。

溝状遺構は、覆土が住居跡・掘立柱遺構の柱穴跡、土坑の覆土より新しい時代のもので、中・近世期の所産と考えられるものです。

(3) まとめ

富士北麓地域では、同時代の遺跡としては笹見原遺跡（忍野村）で住居跡5軒、古屋敷遺跡（富士吉田市）で2軒、滝沢遺跡（富士河口湖町）で8世紀末から10世紀後半までの住居跡38軒、また、西桂町内でも上溝遺跡で住居跡1軒が検出されています。

笹見原遺跡、古屋敷遺跡、滝沢遺跡は古甲斐路ルート上に営まれた集落跡と推定されますが、この池の頭遺跡は、古甲斐路ルートから分岐して古代都留郡の中心地に到るにルート上に営まれた集落跡と考えられます。



調査地遠景



調査区



5号住居跡



5号住居跡出土の轆の羽口



6・9号住居跡



6号住居跡出土遺物



4区掘立柱遺構



3区掘立柱遺構

ふた また だい いち い せき 二又第1遺跡

山梨県観光文化部埋蔵文化財センター 御山 亮済

- 1 所在地 中央市成島・中楯地内
- 2 調査主体 山梨県観光文化部埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和4年4月7日～10月31日(予定)
- 4 調査面積 約5,000㎡
- 5 調査原因 リニア中央新幹線の建設
- 6 調査担当者 御山亮済・小高鉄平・桐部夏帆
- 7 調査概要

遺跡立地と調査経過

二又第1遺跡は、中央市成島と中楯地区にまたがって所在する室町時代後期～戦国時代にかけての集落遺跡です。遺跡がある場所は標高250mほどに位置しており、釜無川が御勅使川扇状地に押し出されるような形で東側に広く形成した扇状地の東端に立地しています。昭和町から中央市域では、この扇状地内を流れる小河川が南北方向に流れることで南北に長い微高地を幾筋も作り出しており、その内のひとつである神明川が形成する微高地上に本遺跡は立地しています。

本遺跡は、発掘調査以前から「周知の埋蔵文化財包蔵地」、いわゆる遺跡の範囲として認知されていました。リニア中央新幹線の関連施設建設の計画に伴い平成30年から令和2年にかけて試掘・確認調査を実施したところ、今回の調査区(約5,000㎡)を含む約15,000㎡が発掘調査の対象となり、令和2年度から調査を行っています。そして、今回の調査は2年目になります。

調査の成果

今回の発掘調査では、ピット600基以上、土坑約200基、溝状遺構約20条、土壇墓15基などが見つっています。これらの遺構は、出土遺物の年代から概ね15世紀代のものと考えられます。

調査区の北半分では、コの字状(一部調査範囲外のため、遺構全体では口の字状に巡る可能性あり)に巡る幅約1.5～2m、深さ約0.2～0.5mの濠(溝)に区画された4つの空間が作り出されていました。全体の規模が明らかな区画は今のところありませんが、南北約15～25m、東西約15m以上で、区画によって面積は異なっています。特に特徴が分かる北西区画を例に区画の構造を詳しく見てみましょう。この区画の中央部には柱穴が集中して検出される箇所があり、この柱穴から建物配置を検討したところ、梁間4間、桁行3間以上で南北約6m、東西6m以上の規模の建

物が建っていたと想定されます。また、建物内には土間と考えられる硬化面があり、その硬化面に近いところに、炭の上に置かれた内耳鍋が見つっています。台所などの調理場が附属する主屋と想定しています。区画の南西には桁行3間、梁間1間の小規模な建物が建っていたと考えられます。倉などの附属施設の可能性が想定されます。

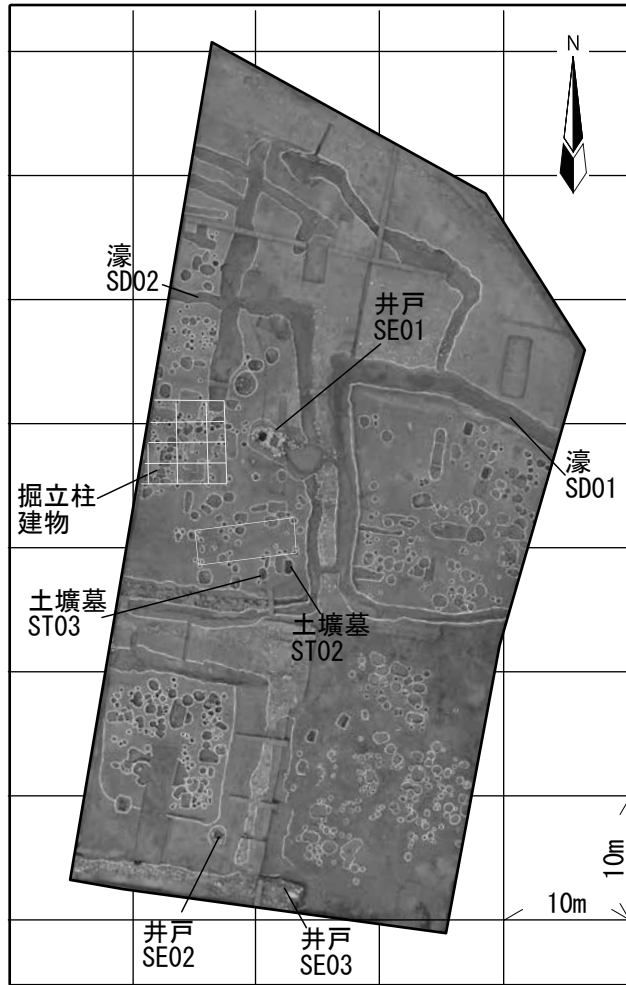
主屋と考えられる建物の東側には井戸があります。この井戸は湧き出る地下水を集めて貯める井戸で、底には水を貯めるために桶が設置されています。今回の調査区では、4つの屋敷地のうち3つに石組みの井戸が見つっています。

また、北西区画の隅には墓が4基見つかりました。墓は木の板で囲った木棺墓と地面を掘っただけの土壇墓があります。今回の調査区では15基の墓が見つっていますが、そのほとんどの墓から人骨が見つっています。埋葬姿勢がわかるものすべてが頭を北に置き、顔を西に向けています。いわゆる釈迦の入滅姿勢と同じであり、仏教の作法により埋葬されていたことが分かります。

今回見つかった濠に区画された空間では、それぞれに掘立柱建物、石組みの井戸、墓(屋敷墓)が見つかりました。各区画でみられる遺構は1区画毎に完結しているセット関係が認められることから、複数の空間が連動して居館のような大きな一つの構造を作り出すのではなく、それぞれが独立した屋敷地であると考えられます。したがって、個々の空間の大きさや建物構造、規模、出土遺物などを考慮して、庶民が暮らした村跡であると考えています。

まとめ

今回の調査ではこれまで不鮮明なところが多かった中世甲斐国の村落を考えるうえで重要な成果をもたらしてくれました。村の構造は濠で区画されていたからこそ1つの生活単位における空間構造が明らかであり、当時の暮らしぶりをより鮮明に考えることができる好資料となるでしょう。ただし、県内事例が乏しいため、出土遺物の分類・整理、全国的な村落構造(濠による区画、屋敷墓の様相など)との比較研究など、課題は数多くあります。これらの課題と向き合っていくことで、甲斐国の中世史研究がさらに進展していくことが期待されます。



二又第1遺跡（C区）調査区全景（北側）



北西区画の掘立柱建物と土間



土壙墓（ST03）に埋葬された人骨



木棺墓（ST02）に埋葬された人骨



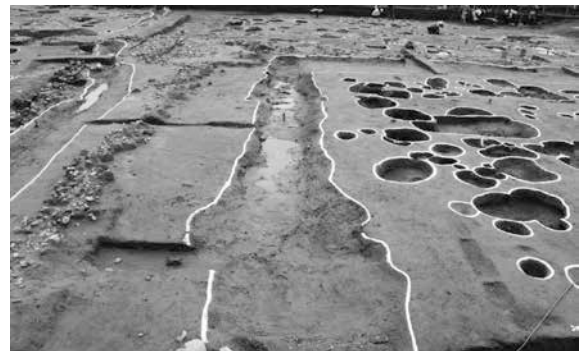
二又第1遺跡遠景（北から）



屋敷地を区画する濠（北東区画）



石組み井戸（SE01）



屋敷地を区画する濠（南西区画）

2022
9月28日 水
11月23日 水 祝
休館日 毎週月曜日（10月10日は開館）

The 39th Special Exhibition

勇者の甲斐
KAI NO TAKEKI-HITO

その原像を探る

左上から時計回り
【国宝】金剛心象形香罏・【国宝】金剛歩輪 鎌倉幕府山古原 文化庁蔵（群馬県立歴史博物館保管）
【重要文化財】三角板 草薙村冠甲・草薙御内付書 野中古墳 大阪大学蔵
圖文書環状乳神鏡鏡 丸山塚古墳 東京大学総合研究博物館蔵
勾玉 甲斐鏡子塚古墳 東京国立博物館蔵 ※書量：かんかん塚（茶壺）古墳内部

山梨県立考古博物館
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 TEL 055-266-3881



2022 (令和4) 年度 第1回
遺跡調査発表会要旨

発行日 2022年10月15日(土)
発行所 山梨県観光文化埋蔵文化財センター TEL 055-266-3016
〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923
<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>
山梨県考古学協会 TEL 055-263-6441
〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566
帝京大学文化財研究所内
やまなしのこうこがく <https://sankoukyou1979.wordpress.com/>
印刷所 峽南堂印刷所 TEL 055-235-2528